

# 学生意識調査の活用事例報告

社会情報学部 その地味な取組を振り返る

学生の現状把握のために  
学部コンセプトを常に意識していくために  
カリキュラム設計への指針を得るために  
そして 学生にとっても意味のある調査とするために

社会情報学部 稲積宏誠

## 社会情報学部のおかれている状況

---

- 2008年発足：

発足と同時に青山回帰の英断 青山初完全郊外型新設学部としての歩み始める 郊外型キャンパスとしての豊かな空間を享受したい

- 既存の理系資産・文系資産を有効活用することが学部としての存在意義
- 国立文型・私立文系志望者の中から数学好きの受験生の発掘
- 理系から文系に転じた受験生，文系で情報分野に関心のある受験生の発掘
- 学生を育てるための教育で他学部との差別化を図る

## 社会情報学部はこのような学生を育てたい

---

- 骨格・筋肉は理系要素：  
統計 コンピュータ 基礎数学を必修 誰もが数理・情報のセンスを磨く
- 心・表情、外見は人文社会系の幅広さ：  
経営 経済 心理 学習 人と社会への視点を体系的に学ぶ
- 社会・人間・情報が織りなす現代社会のさまざまな問題解決に取り組むことのできる人材

学生・企業・社会に対してこのことをいかに理解してもらうか

## 調査は何のために

---

- **学生の姿をデータから読み取る：**  
本学部の弱み＝決められないこと，それをどのように解消できるか  
在学中に方向性を見出すことができるのか
- **カリキュラム改革へ：** 2012年度から新カリキュラム導入  
「社会，情報，融合」 から 「社会，情報，人間」へ  
そしてカリキュラム改訂とコース制へと進める
- **データからアピールポイントを見出す：**  
企業に対して学部コンセプトをどのように理解させるか，  
学生の実態を意識的に見せる \*
- **学生にとっても調査データが機能する：**  
調査は教員のため から 自分自身へもフィードバック  
教育改善だけではなく キャリア支援のためのシステム開発

# 求められる人材を新アプローチで輩出

## 人材は中長期的経営戦略の要

新卒採用は、中長期的な経営戦略のひとつです。将来的な組織の成長や、ビジネス環境の変化に対応できる人材など、ビジネス戦略として考える必要があります。

では、具体的にどのような人材が求められているのでしょうか。

につけ、社会や組織の問題を発見・解決できる人材を育成することによって、この課題にいち早く応えています。

大きな特徴は、私たちの教育方針が「コンペイトウ」に例えられること。徹底的に鍛えられた基礎・教養という船玉に、実践力と専門力という突起がいくつも飛び出しています。いわば、それぞれのコンペイトウが、しっかりとした土台（1・2年次に鍛える基礎力と実践力）の上に、各自の得意分野や長所を伸ばしたツノ（3・4年次に培う専門力）を持っています。さらには、他のツノとの関係性もしっかりと築き（専門分野の関係性を課題とするカリキュラム）成長することで、止まること、方向を変えること、社会変化に適合した強い「折れないツノ」になっているのです。

## 潜在能力を引き出すカリキュラム

具体的には、入学当初から文系/理系を決めつけてしまうのではなく、次のような方法をとっています。

以上のようなことが採用現場の声として聞かれます。

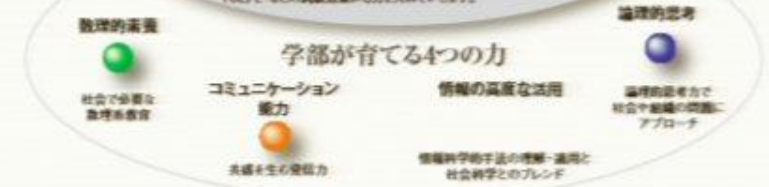
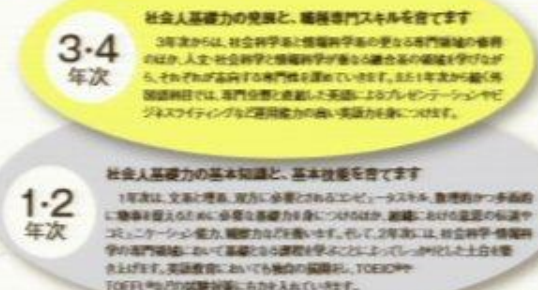
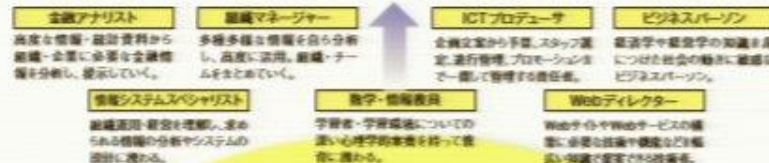
つまり、様々な業務を遂行させ成長に結びつけるコンペイトウ（行動特性や思考力）として、コミュニケーション、関係構築力、チームワーク、リーダーシップ、目標志向、成果志向、CS（顧客満足）志向、計測と組織立案力、業務・ビジネス意識、柔軟性・順応性、育成能力、問題解決能力、分析的思考などの力を持った人材が求められています。

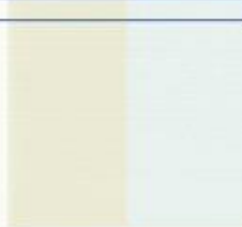
## 長所を伸ばすコンペイトウの発想で

日本や世界を支える次世代の人材輩出という社会的使命を持つ大学においても、時代の変化に対応し、社会から求められる人材像とはいかなるものかを真剣に考えています。社会情報学部は、知識情報化社会の人材育成を最大のテーマに掲げ、国内でも新しい試みをスタートさせた学部です。文理の枠を超えた知識と基礎力を身

経営あるいは運営の中長期戦略を考えた時に、ますます大きくなる社会変化の波を乗りきっていかなければいけません。そのためには、既存の枠にとらわれない人材、新しい領域を開拓できるような人材が必要となるでしょう。社会情報学部は、このようなニーズに応える人材を輩出していきます。ぜひとも人材採用をご検討ください。

## 多様な業界で活躍できる人材輩出を目指した学びのステップ





Best Matching Support Book 2010

採用ご担当者の皆様へ

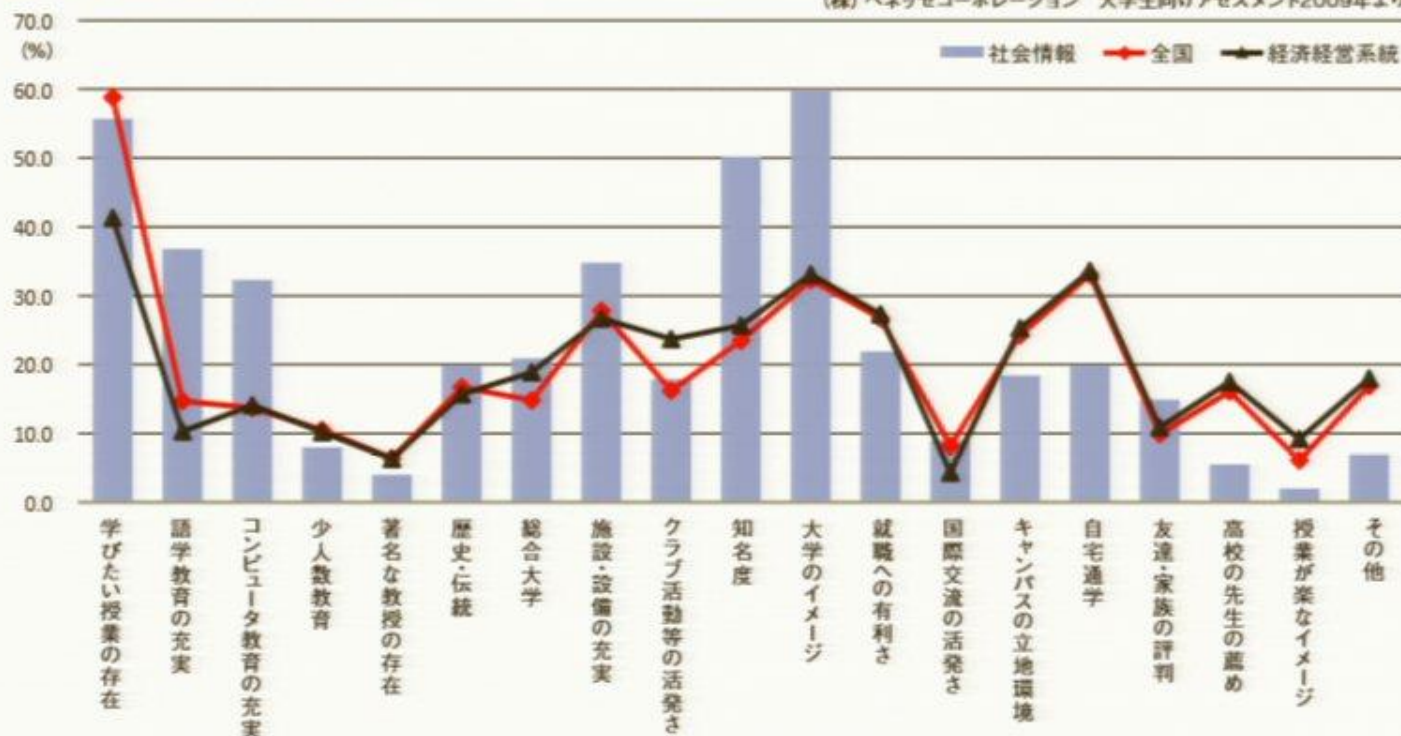
青山学院大学 社会情報学部



## ◆社会情報学部の魅力

社会情報学部への志望動機

(株)ベネッセコーポレーション 大学生向けアセスメント2009年より



## ◆社会情報学部生の社会的強み

質問項目	全国	社会情報学部
自己コントロール力		
目標が高いほどやる気が出る	57.2	67.5
難しいことでもあきらめなくて、努力してやる	60.2	71.4
指示されなくてもやるべきことを見つけて動くことができる	51.5	60.6
挫折しても立ち直りは早い方だ	57.9	64.0
面倒な作業も途中で投げ出さない	56.6	65.0
一度決めたことは、最後までやり遂げる	61.2	70.3
対人関係力		
グループ活動には協力的な方である	72.6	80.7
大勢の前で司会をしたりあいさつをするのが苦にならない	32.4	43.8
多くの情報から何が言えるのかを考えることが好きだ	50.6	57.1
社会的な態度		
アイデアは人よりたくさん思い浮かぶほうだ	40.1	50.7

## 会情報学部生の社会的強み

質問項目		全国	社会情報学部
自己コントロール力	目標が高いほどやる気が出る	57.2	67.5
	難しいことでもあきらめないうで、努力してやる	60.2	71.4
	指示されなくてもやるべきことを見つけて動くことができる	51.5	60.6
	挫折しても立ち直りは早い方だ	57.9	64.0
	面倒な作業も途中で投げ出さない	56.6	65.0
対人関係力	一度決めたことは、最後までやり遂げる	61.2	70.3
	グループ活動には協力的な方である	72.6	80.7
社会的な態度	大勢の前で司会をしたりあいさつをするのが苦にならない	32.4	43.8
	多くの情報から何が言えるのかを考えることが好きだ	50.6	57.1
	アイデアは人よりたくさん思い浮かぶほうだ	40.1	50.7
	機会があれば、外国で勉強や仕事をしてみたい	56.8	73.4

数値は全国：64,172人、社会情報学部2009年度2年生：203名に対する回答割合（%）  
 (株)ベネッセコーポレーション 大学生向けアセスメント2009年より

## 会情報学部学生数

- 「入学定員」 各学年 200名  
 「在籍者数」 1年生 232名(男：000名、女：000名)  
 2年生 214名(男：121名、女：93名)  
 3年生 309名(男：200名、女：109名)



●お問い合わせ先 青山学院大学社会情報学部  
 相模原事務局 学生支援ユニット進路グループ



# 継続的に学生データを収集し 教育や広報の検証・改善を

大学進学率が50%を超え、多様な学生が入学するようになった。多様性は、学力のみならず、学びへの意識、興味・関心、志望動機など、さまざまな面を表れている。大学は受け入れた多様な学生に、効果的な教育・学生支援を実施し、社会で活躍できる人材を育成する責務がある。そのため、学生の実態・成長の継続的な把握が欠かせない。

## 内面にまで踏み込んで 一人ひとりの実態を知る

学習成果の明示、教育の質保証が大学の課題となる中、学生調査の重要性が増している。「Between」は、受け入れた学生の学ぶ意欲を引き出し、教育目標とする力を身に付けさせて、社会に送り出すことが大学の責務である、と提案してきた。その責務を果たすには、学生の実態に基づき教育・学生支援サービスが必要だ。

したがって、入学前から卒業後までの継続的なコミュニケーションを通して、受験生、入学生、在学生、卒業生、社会人と成長していく一人ひとりの実態を把握・分析することは極めて重要である。その結果に基づいて、より大きな、より望ましい方向への成長を促すしくみを構築・改善することが求められる。

大学が把握すべきなのは、学力に関する情報だけではない。興味・関心、大学に関する期待・ニーズなど、学生の内面にまで踏み込んだ多様な情報が不可欠である。大学に何を期待し、どんな意識を持って入学してきたか、そしてどのように成長し、その結果、大学

での4年間をどう過ごしたか、さらに、大学で身に付けた力が社会でどう生かされているか、これらを丁寧に追っていくことは、すべての大学にとって有益だと考えられる。

その大学、その学部・学科で何を学ぶかを明確に理解して入学した学生と、そうでない学生とは、入学後の成長プロセスが同じではなく、支援のポイントも違うのではないか。問題点を発見すれば、対策を講じ、次の調査によってその効果が上がっているかどうかを検証し、第2、第3の対策を講じる。このような調査・分析に基づく実態の把握を起点・チェックポイントとするPDCAサイクルを構築する必要がある。

## プロセスごとに 変化・成長や課題を把握

教育プログラムや学生支援サービスへの反映を目的とする学生調査で入手すべき情報は、どのようなもので、どう活用するのがよいのか。入学前からのプロセスを追ってみたい。

### ①入学前の情報

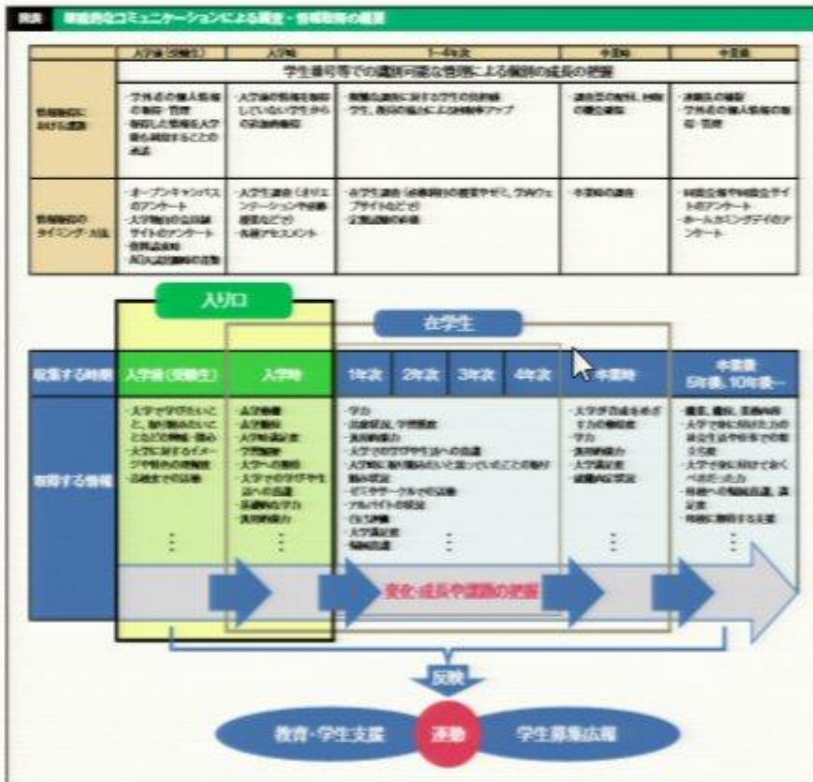
資料請求やオープンキャンパスでの

説明会、AO入試の出願者などから「大学で学びたいこと、取り組みたいことなどの興味・関心」「大学に対するイメージや特色の理解度」「高校までの活動」などの情報を収集・分析し、自学に合った受験生を見いだす。そして、興味・関心に応えられる自学の情報を積極的に個別提供し、相性を確認し合いながら追加情報を入手・提供。こうしたキャッチボールを通じて自学によりよみかわしい志願者に育て、さらに入学前教育によって自学の教育を受ける準備が整った入学生に育て上げる。

もし、自学の広報のコンセプトが受験生の共感や理解を得られない場合は、学生募集広報におけるメッセージの修正を検討する。

### ②入学時の情報

入学生調査によって、「志望動機」「入学時満足度」「大学への期待」「大学での学びや生活への意識」「基礎的な学力」「汎用的能力」などの情報を収集・分析し、教育プログラムや学生支援サービスの策定に反映する。学部・学科・クラス等の単位で、授業での参考の参考にした（集団対応）、クラス分けや個別指導のポイント、配



慮すべき事情などを把握したり（個別対応）する。  
入学前に資料請求などをせず、①の情報収集するタイミングがなかった学生については、ここで追加的な調査も検討する必要がある。  
③1、2、3、4年次の情報  
学年ごとに「学力」「汎用的能力」「大学での学びや生活への意識」「ゼミやサークルでの活動」「入学満足度」などの情報を収集し、学生の変化・成

長を捉える。結果を教育プログラムや個別の指導、学生支援サービスなどの検証・見直しに生かす。  
④卒業時の情報  
卒業時には「大学が育成をめざす方の期待度」「就職内定状況」などを収集する。「学力」「汎用的能力」を入学時と比較することによって、学生課程教育の成果を検証できる。  
⑤卒業後の情報  
卒業後は「大学で身に付けた力が

社会生活や仕事のどんな場面でのように役立っているか」「母校への帰属意識」「母校に期待する支援」などを把握する。「大学で身に付けておくべきだったと思う力」も貴重な情報だ。  
収集した情報を教育プログラムや指導方法、学生支援サービスに反映するという活用は在学生の情報と同様だが、社会というフィルターを通った卒業生の評価やコメントは、より客観的で偏見のない視点を持ち、貴重な示唆に

## 調査データから見える社会情報学部の特徴

- 指定校入試と一般入試の大きなギャップ：  
学部コンセプトの理解，満足度，充実度，勉学への取組，教員への接し方 それぞれの強さと弱さが浮き彫りに
- 充実度は高まるがお勧め度は伸びない  
役に立っている（かもしれない）という意識はもっている がそれを超える満足感が得られていないのかもしれない
- 社会性・国際性の弱さは なぜ？：  
本来社会に目を向けることを基礎としているはずが，実際には受け身，内向きの学生が多い 積極的な取組を意識させない何か



# 学生はどのような意識で入学したのか

---

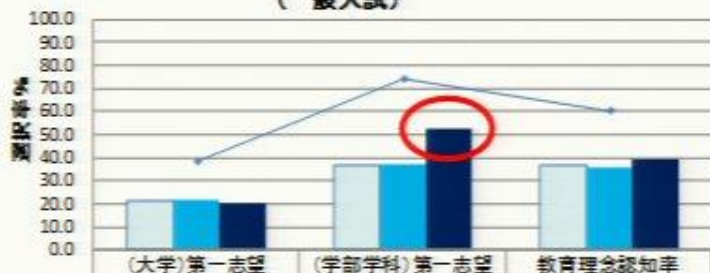
## 【志望度・教育理念認知率 推移】 2010-2012

【社会情報学部】



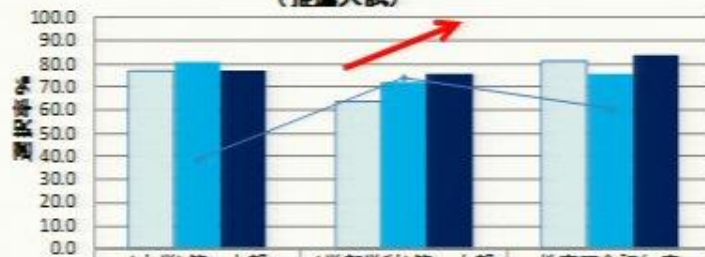
【社会情報学部】10年	45.9	49.8	59.2
【社会情報学部】11年	47.5	52.5	51.6
【社会情報学部】12年	44.6	64.5	57.9
【大学平均】12年	38.6	74.3	60.6

(一般入試)



社情(一般)10年	21.3	37.1	37.1
社情(一般)11年	22.1	37.2	36.0
社情(一般)12年	20.2	52.9	39.4
【大学平均】12年	38.6	74.3	60.6

(推薦入試)



社情(推薦)10年	76.6	63.4	80.9
社情(推薦)11年	80.7	72.3	75.9
社情(推薦)12年	77.0	75.9	83.9
【大学平均】12年	38.6	74.3	60.6

- 例年低めの学部学科志望度だが（一般が特に低い）、推薦は3力年連続、上昇した。また、一般入試も今年度の数値は高めに出た

## 【進路意識5項目 推移】2010-2012

【社会情報学部】



	自己理解	進路条件の明確化	働くことの意味	職業内容理解	学びへの意識	進路総合
【社会情報学部】10年	58.3	51.7	71.6	42.8	64.1	57.7
【社会情報学部】11年	56.2	48.4	69.0	42.9	62.1	55.7
【社会情報学部】12年	56.6	50.7	69.9	44.4	62.5	56.8
【大学平均】12年	59.3	54.5	70.1	45.8	66.6	59.3

●特に一般の学生の方が  
進路意識が不明確な傾向が続く

(一般入試)



	自己理解	進路条件の明確化	働くことの意味	職業内容理解	学びへの意識	進路総合
社情(一般)10年	56.9	49.4	69.3	40.9	61.9	55.7
社情(一般)11年	53.3	46.4	67.5	40.2	60.0	53.5
社情(一般)12年	54.8	49.0	67.7	43.7	60.6	55.1
【大学平均】12年	59.3	54.5	70.1	45.8	66.6	59.3

(推薦入試)



	自己理解	進路条件の明確化	働くことの意味	職業内容理解	学びへの意識	進路総合
社情(推薦)10年	58.8	50.9	73.9	44.4	64.6	58.5
社情(推薦)11年	59.2	48.4	72.8	46.1	64.9	58.3
社情(推薦)12年	58.2	50.0	73.3	45.9	65.1	58.5
【大学平均】12年	59.3	54.5	70.1	45.8	66.6	59.3

# 【進学理由 推移】 2010-2012

●興味, 関心, 専門性で選んでくれているという現実

ただし, 役に立つことは教えてくれるはずだと思っている

【社会情報学部】



(一般入試)



(推薦入試)



# 【入学理由 推移】 2010-2012

【社会情報学部】



【一般入試】



【推薦入試】



●目的を持って入学している学生が増えてきた可能性がある。また、入学後に専攻を選択できることも認知が進んでいる

推薦入試はエンジョイ派

入学後に進路を決められることを評価（積極的かどうか？）

# 【大学選択に役立った情報 推移】 2010-2012

●推薦入学の学生の、  
口コミ傾向が高って  
きている。

パンフレットの効  
果, 高校, 予備校と  
の関係の見直しへ

【社会情報学部】



(一般入試)



(推薦入試)





# 【高校時代の学習習慣 推移】

## 2010-2012

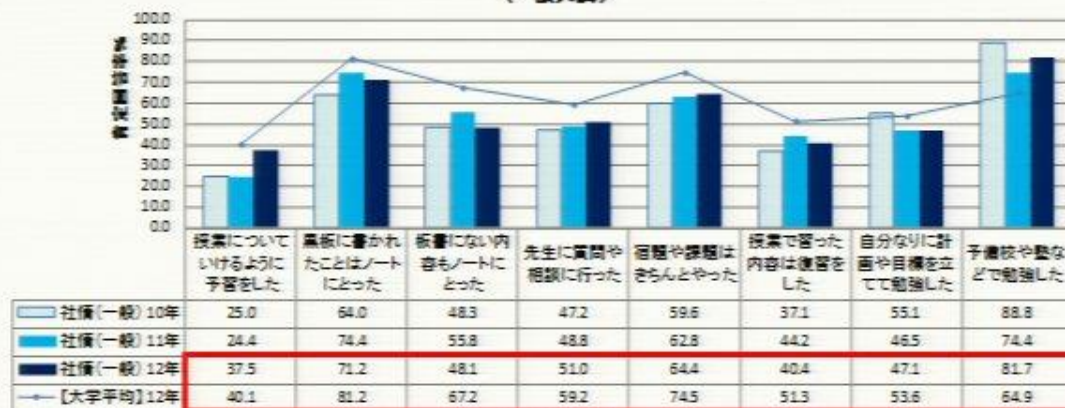
塾・予備校への  
依存度の違い

基本的な勉学への  
姿勢の違いが  
反映？

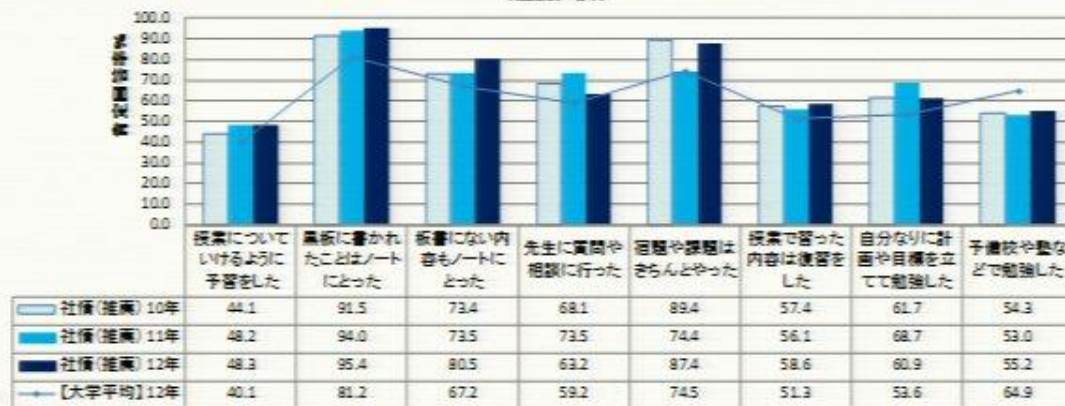
【社会情報学部】



(一般入試)



(推薦入試)



# 学生生活をどうとらえているのか

---



## 教員との交流の程度

		Q26 希望する教員との交流の程度					
		72 教員との交流の程度					
		1	2	3	4	5	
		た い 名 前 を 覚 え て も ら い	も 勉 強 の 相 談 に の つ て	わ り 人 の 先 生 と 深 く 関	た 多 い の 先 生 と 関 わ り	た 教 員 と あ ま り 関 わ り	
社会情報学部	12年	242	55 23.7	71 30.6	23 9.9	79 34.1	2 0.9
一般入試	12年	104	24 24.5	31 31.6	11 11.2	29 29.6	2 2.0
推薦入試	12年	87	19 22.4	29 34.1	6 7.1	31 36.5	
内部進学	12年	14	3 23.1	4 30.8	2 15.4	4 30.8	
センター試験利用	12年	20	6 31.6	4 21.1	3 15.8	6 31.6	
全学部入試	12年	17	3 17.6	3 17.6	1 5.9	9 52.9	
男子	12年	143	35 25.7	35 25.7	18 13.2	46 33.8	1 0.7
女子	12年	99	20 20.8	36 37.5	5 5.2	33 34.4	1 1.0

●特に「勉強の相談にのってもらいたい」「多くの先生と関わりたい」の希望が強い

# 【大学生活への不安 推移】 2010-2012

※各質問の肯定回答率%の推移、 3カ年

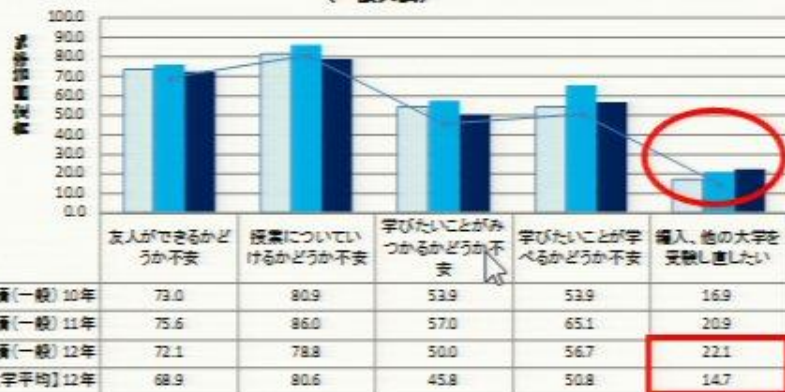
【社会情報学部】



なぜ、何に不安を感じているのかの発掘

学びたいことがあるとするなら、それは何か？

（一般入試）



（推薦入試）



## 困っていること

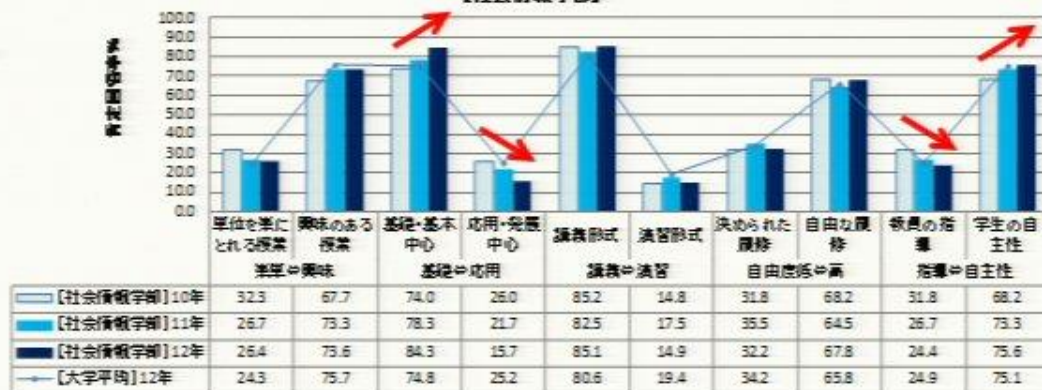
入試区分詳細		困っていることはない	授業のレベルが高い	授業のレベルが低い	学生の意識が低い	やりたいことが見つからない	友人・異性関係	生活が不規則	経済的な事情	その他	無	総計
一般	A方式(日本史)	3	5	1	4	3	2	1		1	3	23
	A方式(世界史)	1			2		2		2			7
	A方式(数学)	1			1	5	1	1	1		1	11
	B方式	2		1	1	3			2			9
	全学部日程		3		1	2	3	4		1		14
推薦	指定校推薦	4	14		3	14	3	1	2	8	1	50
	キリスト教推薦		2					1				3
	スポーツ推薦	1	3			1						5
	スポーツ推薦(強化指定部)		2									2
	海外就学経験者				1	1					1	3
内部	内部進学				1	1						2
センター	センター利用	2	1		2	2		1				8
合計	総計	14	30	2	16	32	11	9	7	10	6	137

# 【カリキュラムへの期待 推移】 2010-2012

●基礎基本を求める  
希望が、一般入試で  
も高まっている。

専門性を打ち出すた  
めに何をすべきか

【社会情報学部】



（一般入試）



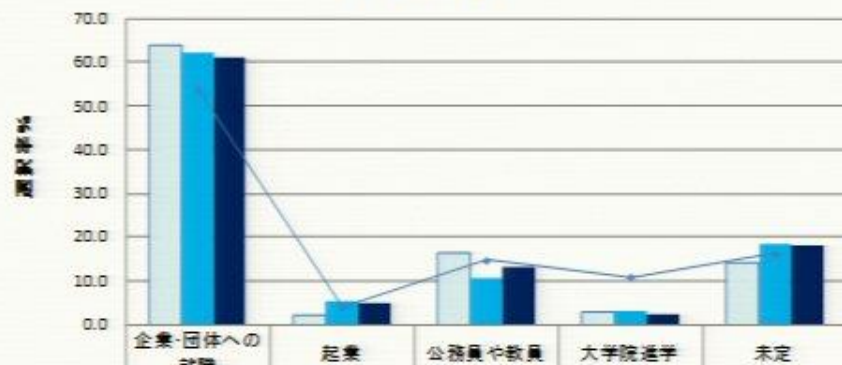
（推薦入試）



## 【卒業後の想定進路 推移】2010-2012

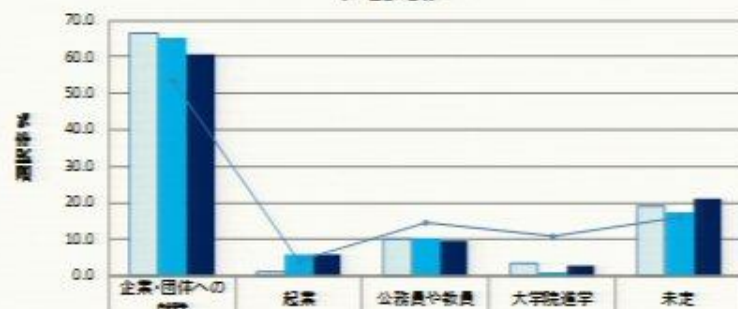
※選択率%の推移、3カ年

【社会情報学部】

大学院充実化への取組  
の困難さを示唆役に立つ教育との  
ギャップ ジレンマ

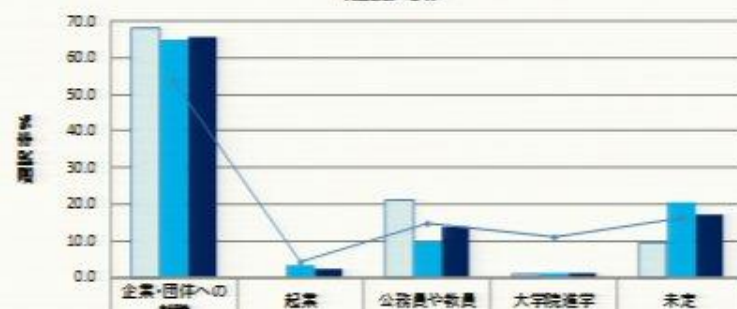
	企業・団体への就職	起業	公務員や教員	大学院進学	未定
【社会情報学部】10年	63.7	2.2	16.6	3.1	14.3
【社会情報学部】11年	62.2	5.5	10.6	3.2	18.4
【社会情報学部】12年	61.2	5.0	13.2	2.5	18.2
【大学平均】12年	53.7	4.2	14.8	11.0	16.3

(一般入試)



	企業・団体への就職	起業	公務員や教員	大学院進学	未定
社債(一般) 10年	66.3	1.1	10.1	3.4	19.1
社債(一般) 11年	65.1	5.8	10.5	1.2	17.4
社債(一般) 12年	60.6	5.8	9.6	2.9	21.2
【大学平均】12年	53.7	4.2	14.8	11.0	16.3

(推薦入試)



	企業・団体への就職	起業	公務員や教員	大学院進学	未定
社債(推薦) 10年	68.1	3.6	21.3	1.1	9.6
社債(推薦) 11年	65.1	3.6	9.6	1.2	20.5
社債(推薦) 12年	65.5	2.3	13.8	1.1	17.2
【大学平均】12年	53.7	4.2	14.8	11.0	16.3

# 学部をどう評価しているのか

---





## 【学士力への授業の役立ち度】

■ 学士力への授業の役立ち度(肯定回答率%) 上段:当年度、中段:

	質問項目		全国計	青学計	【社情】	社情(一般)	社情(推薦)
1	コミュニケーションスキル (日本語や外国語を用いて読み、書き、聞き、話すことができる)	今年度2年生	61.5	67.6	68.1	72.4	68.3
		昨年度2年生	60.5	71.2	75.5	71.8	78.0
2	数量的スキル (自然や社会的な事柄について、統計的に分析・理解し、説明することができる)	今年度2年生	48.9	44.2	62.0	63.8	59.7
		昨年度2年生	51.1	47.7	63.2	46.2	74.0
3	情報リテラシー (インターネットを用いて収集・分析した情報を、ルールに則って活用することができる)	今年度2年生	69.1	70.9	81.2	86.2	81.0
		昨年度2年生	68.5	70.4	92.5	94.9	88.0
4	論理的思考力 (情報や知識を論理的に分析し、説明することができる)	今年度2年生	61.5	64.5	69.3	71.9	69.8
		昨年度2年生	56.9	63.9	63.2	59.0	62.0
5	問題解決力 (問題を発見し、必要な情報を収集・分析したうえで解決することができる)	今年度2年生	65.2	65.9	66.2	69.6	65.1
		昨年度2年生	62.8	68.7	68.6	61.5	69.4
6	自己管理能力 (自らを律して行動することができる)	今年度2年生	67.0	67.9	73.5	71.9	77.4
		昨年度2年生	65.1	67.7	64.8	66.7	63.3
7	チームワーク・リーダーシップ (他者に働きかけ、協力し合って行動することができる)	今年度2年生	56.1	55.9	65.2	65.5	70.0
		昨年度2年生	56.1	56.2	68.6	64.1	77.6
8	倫理観 (自己の良心と社会の規範やルールに従って行動することができる)	今年度2年生	70.1	68.8	69.6	69.0	73.0
		昨年度2年生	70.5	71.8	66.3	61.5	71.4
9	市民としての社会的責任 (社会の一員としての意識を持ち、仕事や地域活動、政治参加などを通して社会と関わることができる)	今年度2年生	54.4	52.6	48.9	57.1	45.0
		昨年度2年生	55.8	57.4	51.0	43.6	59.2
10	生涯学習力 (卒業後も自ら進んで学習することができる)	今年度2年生	60.4	61.9	58.1	56.9	67.2
		昨年度2年生	60.1	66.0	55.8	46.2	60.4

- 授業の役立ち感は、1年次の授業は成長に役立っていると感じている様子

## 【大学生生活の充実度】 【学部・学科のお勧め度】

□ 受検者数		全国計	青学計	【社情】	社情(一般)	社情(推薦)
2012年度	今年度2年生	16,486	2,585	145	62	65
2011年度	昨年度2年生	28,538	2,114	106	39	50
1年次	1年次	92,362	3,913	217	86	83

### ■ 充実度(選択率%) 上段:当年度、下段:前年度

質問項目		全国計	青学計	【社情】	社情(一般)	社情(推薦)
1・2	とても充実している+まあ充実している	今年度2年生 80.7	80.4	84.9	<b>87.9</b>	81.0
	昨年度2年生	77.8	79.0	81.1	79.5	82.0
1	とても充実している	今年度2年生 20.9	23.0	23.0	<b>17.2</b>	<b>31.7</b>
	昨年度2年生	18.9	20.8	20.8	17.9	22.0
2	まあ充実している	今年度2年生 59.8	57.4	61.9	<b>70.7</b>	<b>49.2</b>
	昨年度2年生	58.9	58.3	60.4	61.5	60.0
3	あまり充実していない	今年度2年生 16.1	16.5	<b>10.8</b>	<b>8.6</b>	15.9
	昨年度2年生	18.2	17.3	15.1	12.8	18.0
4	まったく充実していない	今年度2年生 3.2	3.1	4.3	3.4	3.2
	昨年度2年生	4.0	3.7	3.8	7.7	0.0

●両区分ともに充実しているが、一般の学生の方が充実している様子。

### ■ 学部・学科を後輩へ勧めたいか(選択率%) 上段:当年度、下段:前年度

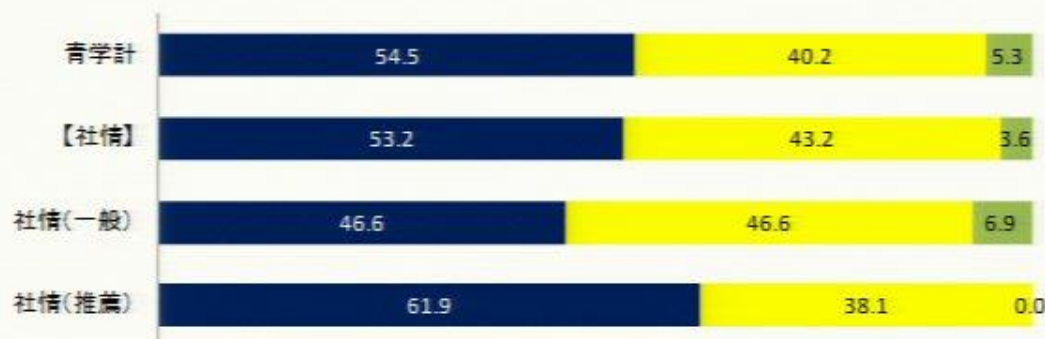
質問項目		全国計	青学計	【社情】	社情(一般)	社情(推薦)
1・2	とても勧めたい+まあ勧めたい	今年度2年生 72.8	73.0	<b>55.4</b>	<b>51.7</b>	<b>54.0</b>
	昨年度2年生	68.2	70.7	45.3	43.6	38.0
1	とても勧めたい	今年度2年生 13.1	15.7	<b>7.9</b>	<b>5.2</b>	<b>7.9</b>
	昨年度2年生	11.3	13.9	4.7	7.7	2.0
2	まあ勧めたい	今年度2年生 59.7	57.3	<b>47.5</b>	<b>46.6</b>	<b>46.0</b>
	昨年度2年生	56.9	56.8	40.6	35.9	36.0
3	あまり勧めたくない	今年度2年生 22.1	22.6	<b>33.8</b>	<b>37.9</b>	<b>33.3</b>
	昨年度2年生	24.6	23.6	44.3	51.3	48.0
4	まったく勧めたくない	今年度2年生 5.2	4.5	<b>10.8</b>	<b>10.3</b>	<b>12.7</b>
	昨年度2年生	7.2	5.7	10.4	5.1	14.0

▲ ●お勧め度は例年通り、全学と比べると低い状態

## 【入学前後のイメージギャップ】

## 【入学前のイメージ】

- 入学前：良いイメージを持っていた ■ 入学前：どちらともいえない  
■ 入学前：悪いイメージを持っていた



## ■ 想像より良かった項目(選択率%)

※入学後に「想像より良かった」と回答した学生対象

質問項目	全国計	青学計	【社情】	社情(一般)	社情(推薦)
入学後に「想像より良かった」と回答した学生の人数	5,147	724	33	15	14
1 興味のある科目の数が多	20.6	18.1	18.2	13.3	14.3
2 授業の内容がわかりやすい	3.9	4.3	9.1	13.3	7.1
3 語学教育が充実している	5.6	7.6	9.1	13.3	7.1
4 専門科目が多い	12.1	8.7	6.1	6.7	7.1
5 自由時間が多い	17.9	17.7	12.1	6.7	7.1
6 教員との交流機会が多い	2.4	1.0	3.0	0.0	7.1
7 学生同士の交流機会が多い	9.8	7.5	6.1	6.7	7.1
8 周囲の学生の意識が高い	4.8	7.9	3.0	0.0	7.1
9 キャンパスの施設・設備が充実している	11.8	23.2	24.2	33.3	21.4
10 キャリア形成支援・資格取得支援が充実	3.7	0.3	0.0	0.0	0.0
11 その他	2.6	1.8	6.1	6.7	7.1
12 特になし	4.8	2.1	3.0	0.0	7.1

## ■ 想像より悪かった項目(選択率%)

※入学後に「想像より悪かった」と回答した学生対象

質問項目	全国計	青学計	【社情】	社情(一般)	社情(推薦)
入学後に「想像より悪かった」と回答した学生の人数	4,371	762	50	19	26
1 興味のある科目の数が少	20.0	22.7	30.0	26.3	34.6
2 授業の内容が難しい	11.5	12.2	28.0	15.8	34.6
3 語学教育が不足している	8.0	10.2	2.0	0.0	3.8
4 専門科目が少ない	4.0	4.2	2.0	0.0	3.8
5 自由時間が少ない	6.9	4.9	8.0	5.3	11.5
6 教員との交流機会が少ない	5.2	7.9	4.0	5.3	3.8
7 学生同士の交流機会が少ない	8.1	8.9	4.0	5.3	0.0
8 周囲の学生の意識が低い	16.9	16.8	16.0	26.3	7.7
9 キャンパスの施設・設備が不十分	7.6	1.9	0.0	0.0	0.0
10 キャリア形成支援・資格取得支援が不十分	2.4	3.4	2.0	5.3	0.0
11 その他	5.1	4.3	2.0	5.3	0.0
12 特になし	3.9	2.6	2.0	5.3	0.0

- よかった項目・・・キャンパスの施設・設備面
- 悪かった項目・・・興味のある科目数、授業内容が難しい

(周囲の学生の意識が低い・・・一般) (自由時間が少な 推薦)

# 調査データの学生へのフィードバック

---



# エントリーシート作成の流れ

みつめる 添付ファイル

CAREER APPROACHの結果を確認

考える タスク登録

データの新規作成 (自己分析の蓄積)

CAREER APPROACHの結果→新しいタスク  
作成→ESにチャレンジの流れ

整理する マイカテゴリ管理

データのカテゴリ分け

例) 金融、商社、メーカー etc.

利用する タスク表示

蓄積データをカテゴリ毎や時系列で表示  
データの検索

- Contents
- トップページ
- ログイン設定
- マイカテゴリ管理
- タスクの登録
- タスクの表示・編集
- 添付ファイル
- 一覧表示

## トップページ

### 新しいタスクの作成

作成 ▶ 一覧表示 ▶

### 最初にCAREER APPROACHの結果を確認

作成 ▶ 一覧表示 ▶

### エントリーシートにチャレンジ

作成 ▶ 一覧表示 ▶

## エントリーシート挑戦までの道のり~自己PR・志望動機作成~

- Contents
- ➡ トップページ
  - ➡ ログイン設定
  - ➡ マイカテゴリ管理
  - ➡ タスクの登録
    - » 新しいタスクを登録する
    - » 最初にCAREER APPROACHの結果を確認しよう
    - » エントリーシートにチャレンジ
  - ➡ タスクの表示・編集
  - ➡ 添付ファイル

ステップ	アクション
自己PR STEP1. 学生生活の振り返り	最初にCAREER APPROACHの結果を確認しよう(0件) 1. 取組んだことをリストアップしよう(1件) 2. 取組んだ活動の深掘りをしよう(2件)
自己PR STEP2. 自己分析	1. 自分の性格から長所と短所を認識しよう(2件) 2. 自分の強みを確認しよう(0件) 3. 自分の強みを分析しよう(0件)
自己PR STEP3. 自己PRの完成	自己PRを作成しよう(2件)
志望動機 STEP1. 興味のある業種	1. 興味のある業種を確認しよう(1件)
志望動機 STEP2. 興味のある職種	1. 興味のある職種を確認しよう(0件)
志望動機 STEP3. 会社選びの価値観	1. 会社を選ぶ際の価値観(判断軸)を確認しよう(1件)
志望動機 STEP4. 会社研究	1. 企業とその企業との適性を調べてみよう(0件)
志望動機 STEP5. 志望動機の完成	1. 志望動機作成(STEP1~4)まとめ(0件)
エントリーシートにチャレンジ	エントリーシートにチャレンジ(3件)

- Contents
- トップページ
- ログイン設定
- マイカテゴリ管理
- タスクの登録
  - 新しいタスクを登録する
  - 最初にCAREER APPROACHの結果を確認しよう
  - エントリーシートにチャレンジ
- タスクの表示・編集
- 添付ファイル

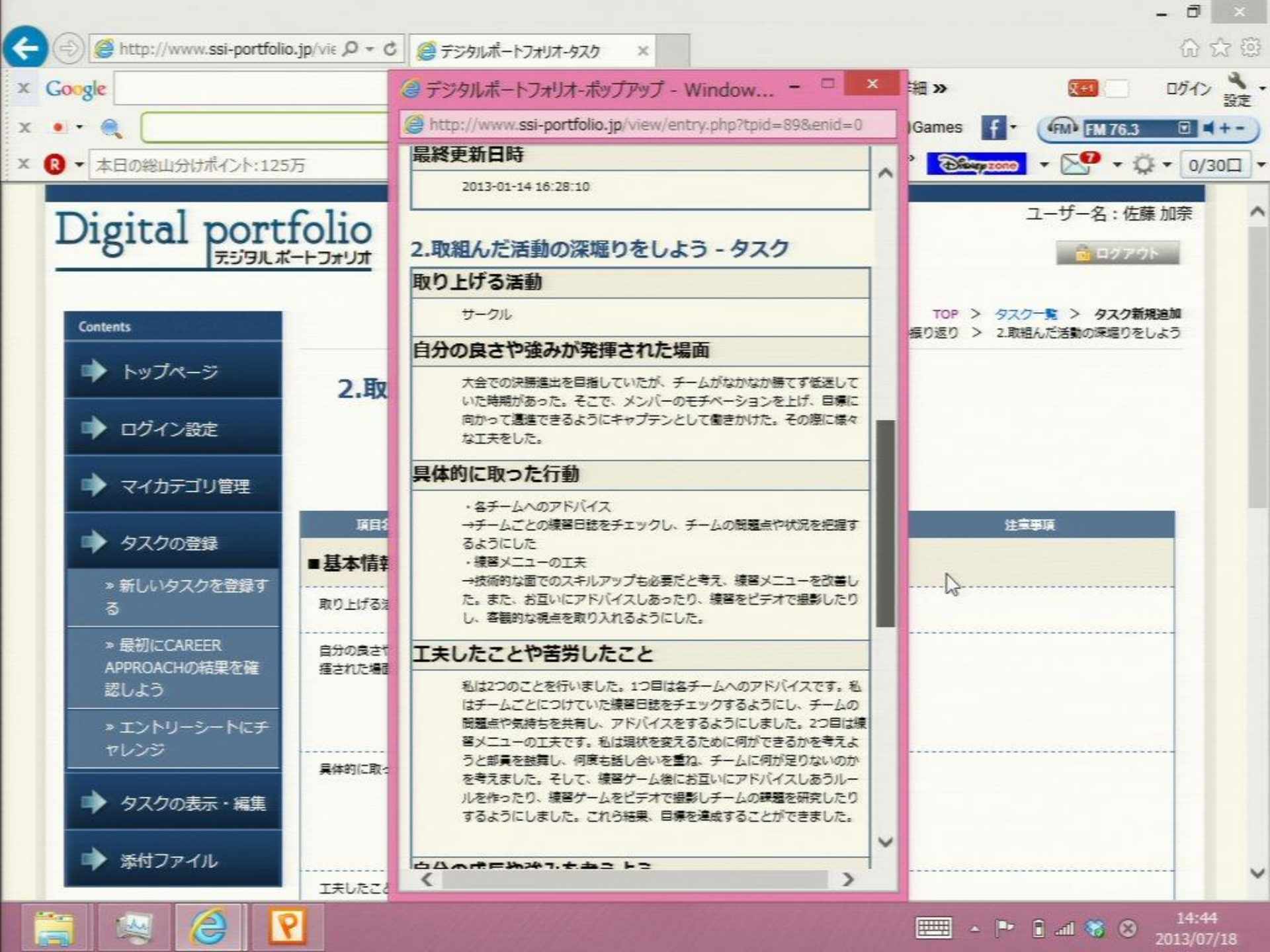
TOP > タスク一覧 > タスク新規追加  
自己PR STEP1. 学生生活の振り返り > 2. 取組んだ活動の深掘りをしよう

## 2. 取組んだ活動の深掘りをしよう の入力

過去表示

項目名	入力欄	注意事項
<b>■ 基本情報</b> 取組んだ活動 1つめ		
取り上げる活動	<input type="text"/>	
自分の良さや強みが発揮された場面	<input type="text"/>	
具体的に取った行動	<input type="text"/>	
工夫したことや苦労し	<input type="text"/>	





**最終更新日時**  
2013-01-14 16:28:10

## 2.取組んだ活動の深堀りをしよう - タスク

### 取り上げる活動

サークル

### 自分の良さや強みが発揮された場面

大会での決勝進出を目指していたが、チームがなかなか勝てず低迷していた時期があった。そこで、メンバーのモチベーションを上げ、目標に向かって邁進できるようにキャプテンとして働きかけた。その際に様々な工夫をした。

### 具体的に取った行動

- ・各チームへのアドバイス  
→チームごとの練習日誌をチェックし、チームの問題点や状況を把握するようにした
- ・練習メニューの工夫  
→技術的な面でのスキルアップも必要だと考え、練習メニューを改善した。また、お互いにアドバイスしあったり、練習をビデオで撮影したりし、客観的な視点を取り入れるようにした。

### 工夫したことや苦労したこと

私は2つのことを行いました。1つ目は各チームへのアドバイスです。私はチームごとにつけていた練習日誌をチェックするようにし、チームの問題点や気持ちを共有し、アドバイスをするようにしました。2つ目は練習メニューの工夫です。私は現状を変えるために何が出来るかを考えようと部員を鼓舞し、何事も話し合いを重ね、チームに何が足りないのかを考えました。そして、練習ゲーム後にお互いにアドバイスしあうルールを作ったり、練習ゲームをビデオで撮影しチームの課題を研究したりするようにしました。これら結果、目標を達成することができました。

### 自分の良さや強みが発揮されたこと

工夫したこと

ユーザー名: 佐藤 加奈

ログアウト

TOP > タスク一覧 > タスク新規追加  
振り返り > 2.取組んだ活動の深堀りをしよう

### 注意事項

- ➡ トップページ
- ➡ ログイン設定
- ➡ マイカテゴリー管理
- ➡ タスクの登録
  - 新しいタスクを登録する
  - 最初にCAREER APPROACHの結果を確認しよう
  - エントリーシートにチャレンジ
- ➡ タスクの表示・編集
- ➡ 添付ファイル

## エントリーシートにチャレンジの入力

サンプル表示 ▶ 過去表示 ▶

項目名	入力欄	注意事項
<b>■ 基本情報</b> 今までのものをcheckしながら、会社ごとに完成させましょう。		
エントリーする会社名	<input type="text"/>	志望する会社名 (ESを提出する会社名)。会社名が定まらない時は、まず志望する業種・職種を決めよう。
その業種	<input type="text"/>	志望する会社の業種は？ 業種が決まらない時は以下へ ↓ 1. 興味のある業種を確認しよう 作成 ▶ 過去表示 ▶
その職種	<input type="text"/>	志望する会社でやりたい職種は？ 職種が決まらない時は以下へ ↓ 1. 興味のある職種を確認しよう 作成 ▶
自己PR (強み、出来ること)	<input type="text"/>	自分の強みや得意なことを入力。すごい事でもなくても良い。成果を出した行動などから強みを見つけ出す。見つからない時は以下へ ↓ 自己PRを作成しよう 作成 ▶ 過去表示 ▶